

授業科目	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	松尾 信子
講義の内容	<p>今日では、生涯学習の重要性が増しており、人びとはさまざまな機会と方法で、生涯にわたって自発的に学習することが求められています。この講義では、生涯学習の概念が生まれた歴史的背景、そして、なぜ現代社会において生涯学習が必要なのか、ということについて学びます。また、これから地域の生涯学習推進の中核的な拠点となるのが図書館です。ですから、図書館司書が学習者の援助や指導を行う上で不可欠な知識や考え方についても理解を深めます。</p>				
到達目標	<p>この講義では、次の3点を到達目標にしています。</p> <p>① 生涯学習の理念や意義を理解し、専門用語を用いて自分の考えを述べる。</p> <p>② 自己の生涯学習プランを作成する。</p> <p>③ 図書館司書の役割を理解し、学習者への支援について考える。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション（授業のやり方・受講者の心構え・メールを利用したレジュメの発信とレポートの提出方法・採点方法などの説明）			
	第2回	生涯学習の理念と歴史			
	第3回	生涯学習推進のための行政の役割と支援体制			
	第4回	生涯学習の課題と学習の内容			
	第5回	成人教育学の動向と成人教育の方法			
	第6回	【個人ワークと発表】生涯学習の理念や意義について、専門用語を用いて自分の考えを述べる			
	第7回	生涯学習の実践事例（1）			
	第8回	生涯学習の実践事例（2）			
	第9回	【個人ワークと発表】自己の生涯学習プランを作成し、発表する			
	第10回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（1）			
	第11回	生涯学習のための施設と各施設の専門職員（2）（司書、学芸員等の役割と専門性）			
	第12回	【グループワークと発表】図書館司書の役割を理解し、学習者への支援計画を作成し発表する			
	第13回	生涯学習施設におけるボランティアの意義とその学び			
	第14回	生涯学習・生涯教育の計画化			
	第15回	授業の総括と演習（発表と意見交換）			
授業に対する予習・復習	予習：	レジュメは毎回インターネットで配信しますので、事前に印刷して、必ず目を通してから授業に参加してください。	復習：	授業の中でレポート課題や演習課題について説明し、課題の提出（発表）を求めます。課題を通して復習を行います。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（40％）、発表（40％）、授業態度（20％）</p>				
教科書					
参考文献	そのつど指示します。				
注意事項	<p>1. 時間厳守です（始業時間に遅れて教室に入らないでください）。</p> <p>2. レジュメやレポート課題は毎回インターネットで配信しますので、講義の際に忘れずに持参してください。</p> <p>3. 授業は毎回、演習やグループワークを取り入れた全員参加型ですので、楽しく活発な授業内容になるように協力してください。</p>				

授業科目	文学に親しむ	単位数	2	担当教員	及川 道之
講義の内容	古代から近代までの日本の文学作品や作家を順を追って取り上げ、文学の有する魅力を深く実感する。実際にそれぞれの作品を丁寧に読み進めながら、作品の生まれた時代や社会との関わりについて詳しく解説する。				
到達目標	文学の魅力を実感する。 積極的に読んでみたいと思える文学作品と出会う。 文学を通して社会について考える。				
授業計画	第1回	文学とどう関わるか～授業の開始にあたって			
	第2回	古事記神話～なぜ神話は必要とされたのか			
	第3回	古事記神話～世界の始まりはどうイメージされたのか			
	第4回	万葉集～うたと文字との出会い			
	第5回	万葉集～好みのうたを探そう			
	第6回	源氏物語～なぜ傑作なのか			
	第7回	源氏物語～平安京という空間			
	第8回	宇治拾遺物語～お話し の原点			
	第9回	宇治拾遺物語～お話しが伝える豊饒な世界			
	第10回	徒然草～兼好法師の人生観			
	第11回	閑吟集～今につながる流行歌			
	第12回	柳多留～江戸川柳の面白さ			
	第13回	小泉八雲～「耳なし芳一」「雪女」怪談を読む			
	第14回	石川啄木～生活がうたになる			
	第15回	宮澤賢治～「賢治先生」の願う世界			
授業に対する予習・復習	予習： その都度指示する		復習： 授業で配布したプリントの内容をノートに整理しておく		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（80％）、授業態度（20％）				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	一人一人がそれぞれの文学作品についてどのように捉え感じたのか、漠然と授業に臨むのではなく文学と出会うための貴重な機会として出席して貰いたい。				

授業科目	心理学入門	単位数	2	担当教員	川田 三夫
講義の内容	一言で言えば、人間のあれこれについて楽しく学ぼうというのが基本的な姿勢です。 最近の若者に特有とされる“場の空気”を読むことにも役立つ学習内容も考えている。 社会心理学から対人関係に焦点を当てて心理学のノウハウを学ぶ。 深層心理(潜在意識)について、フロイトの理論を基に無意識的な行動の分析等についても学修する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「汝自身を知れ」を第一のモットーとする。 ・具体的には、就職活動の面接、プレゼンに必要な自己の理解、長所短所を明確に理解する。 ・心理テスト、性格テストを体験的に理解する。 ・背景にある心理学の知識、理論を学ぶ。 				
授業計画	第1回	哲学から心理学へ (ガイダンス、心理学の簡単な歴史、投影法テスト紹介、など)			
	第2回	パーソナリティ (主な理論、簡単なテスト、など)			
	第3回	特性論 (理論、実際のテスト、診断、など)			
	第4回	フロイト① (力動論、エゴグラム、交流分析、など)			
	第5回	フロイト② (精神分析、発達理論、神経症、など)			
	第6回	類型論 (歴史的背景、クレッチマー、実際のテスト、など)			
	第7回	防衛機制 (理論的背景、考え方、種類、人間関係への活用)			
	第8回	劣等感 (コンプレックスの本来の意味、実際のテスト、補償など活用する方法)			
	第9回	対人関係① (20答法、社会的自己、社会心理学的あれこれ)			
	第10回	対人関係② (日常的に活用可能な幾つかの概念、主に恋愛に関連するもの、など)			
	第11回	深層心理① (色の話、幾つかのテスト、流行色・ファッション、など)			
	第12回	深層心理② (夢の話、フロイトとユング、象徴と解釈、など)			
	第13回	行動分析① (無意識的な行動の意味すること、何気なくせ、など)			
	第14回	行動分析② (対人場面、発言、服装、態度、など)			
	第15回	パトグラフィ (芸術家の心と作品の関係、筆跡と性格等) など			
授業に対する予習・復習	予習： 日常的な人間の観察、事件等の確認をする。 主な作家ついて作品等を理解する。 主な映画やドラマ等も観ておく。	復習： 心理・性格テストの結果を理解する。 今後の自分にどう生かすかを考える。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (60%)、課題 (40%)、				
教科書					
参考文献					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・レジメを基本にして、資料、DVD等を使って講義を行う。 ・自己理解のため、簡単な性格テストや心理学関連アンケートを行う。 ・授業中の私話、携帯電話、飲食等は禁止。好ましくない者は注意の上退出させる。 				

授業科目	現代社会入門	単位数	2	担当教員	松木 久子
講義の内容	私たちの身近なところで目にしたり耳にしたりする事象を入り口にして、一般常識としての時事問題に対する理解力を養うことを目標とし、社会を見る目を養う力を身に付けられるように様々な話題を提供していきます。日本の政治等・環境問題・国際的な問題等の具体的な理解を通して、これからの日本の将来や世界的な視野をも養えるよう指導をしていきます。				
到達目標	自分なりの意見や考えをまとめ、発表力をつけられるように基礎力を養う。				
授業計画	第1回	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の概要等			
	第2回	日本の政治：与党と野党			
	第3回	日本の政治：選挙制度			
	第4回	日本の政治：憲法改正論			
	第5回	司法制度改革			
	第6回	地球温暖化問題(1)			
	第7回	地球温暖化問題(2)			
	第8回	消費税率引き上げ問題			
	第9回	差別をめぐる問題(1)			
	第10回	差別をめぐる問題(2)			
	第11回	戦争をめぐる問題(1)			
	第12回	戦争をめぐる問題(2)			
	第13回	オリンピック			
	第14回	少子高齢化社会の問題			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： いろいろな事柄について調べる力を養っておく。	復習： 自分の意見や考えをまとめ、発表できるようにしておく。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（40%）、発表（30%）、授業態度（30%）				
教科書	特に指定はしません。				
参考文献	授業中にプリント・資料等を配布します。				
注意事項	日頃から身の回りのいろいろなことに興味や関心を持ち、図書館等で自ら積極的に調べることを通して主体的に学ぶ態度を養ってください。また毎日一回、必ず新聞に目を通したり、ニュースに耳を傾けたりしてください。講義が中心となりますが、発表や映像鑑賞を取り入れたりしながら、柔軟に授業展開をしていきます。				

授業科目	くらしと経済	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
講義の内容	どのような状況でも私たちは消費をやめることはできません。しかも、ある水準の消費生活を実現しようとすれば、安定的な雇用環境と所得の確保が必要となります。また、消費生活は確実に安全でなければなりません。しかし、商品やサービスに関する情報は多くの場合、その非対称性が大きな問題になっています。このような消費生活の基盤がいまどのようなふうになっているのか、講義を通して整理していきます				
到達目標	到達目標は、経済学の基礎概念の習得と経済時事問題を理解するための基本的な視点の確立とします。				
授業計画	第1回	消費欲求とその対象			
	第2回	消費生活の水準			
	第3回	価格と消費			
	第4回	所得と消費			
	第5回	消費生活の現状（1）家計調査とは			
	第6回	消費生活の現状（2）家計収入と消費			
	第7回	消費生活の現状（3）雇用と消費			
	第8回	消費生活の現状（4）家計消費の特徴			
	第9回	消費者環境（1）企業と家計			
	第10回	消費者環境（2）行政と家計			
	第11回	消費者環境（3）消費と安全			
	第12回	消費者環境（4）購買チャンネルの多様化			
	第13回	賢い消費者とは（1）			
	第14回	賢い消費者とは（2）			
	第15回	プレゼンテーション			
授業に対する予習・復習	予習： 図書館で経済学の入門書を利用し、各回のキーワードについて調べておく。	復習： 授業時に配布したプリントの内容をまとめる。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、レポート（40%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	経済関係のニュースに関心を持つようにしましょう。				

授業科目	茶 道 を 学 ぶ	単位数	2	担当教員	浜田 孝子
講義の内容	茶道は日本人が長い歴史の中で受け継いできた有形、無形の伝統文化です。茶道の持つ深い精神性から点前、茶室、茶道具、懐石料理などが生まれました。この授業は、このような日本独自の総合芸術である茶道を理解するために必要な知識と所作を学びます。特に実技では、茶会に参加した場合を想定して、客の心構えや茶室での立ち振る舞い、茶の飲み方を中心に行ないます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道を学ぶ上で必要な知識を理解し、茶道文化検定4級レベル相当を目指します。 ・ 畳敷きの茶室での基本的な所作の実践を通して茶席での客の作法を身につけます。 ・ 茶会に参加した際に自信を持って対応できるようにします。 				
授業計画	第1回	ガイダンス：「茶道を学ぶ」ことの意味について概説する。15回の講義の流れについて説明する。			
	第2回	茶の精神について：茶の心と美意識についての講義。畳の上を歩く実技。			
	第3回	茶の歴史①：喫茶の起源と日本への伝来についての講義。立つ、座るの実技。			
	第4回	茶の歴史②：茶文化の広がりや千利休による茶道の大成についての講義。襖の開け閉めとお辞儀の実技。			
	第5回	抹茶の話：茶の種類と製造方法、効能についての講義。前回までの所作の復習と確認のための実技。			
	第6回	茶室について：床の間、掛け軸についての講義。床の間の拝見の作法の実技。			
	第7回	茶道具について：点前に必要な道具の名称と役割についての講義。所作の復習と確認の実技。			
	第8回	点前について①：点前の構成と客の心得についての講義。茶席での装いと持ち物、作法を中心とした実技。			
	第9回	点前について②：茶の飲み方と菓子の食べ方の講義と実技。			
	第10回	茶会に招かれたら：客としての心構えと茶席での床の間の拝見、茶の飲み方等の所作の確認と実技。			
	第11回	模擬茶会①：実際の客となり、菓子を食べて茶を飲む。			
	第12回	模擬茶会②：前週と同じ。			
	第13回	模擬茶会③：前週と同じ。			
	第14回	授業のまとめ：「茶道を学ぶ」ことに関してのレポート。課題は事前に提示する。			
	第15回	総合演習：一服の茶を飲む行為を通して、茶道の精神性、芸術性を再確認する。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で習得した内容の意味を確認、理解する。特に実技は反復練習して身につける。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、実技（30%）、授業態度（50%）				
教科書	適宜資料配布				
参考文献	『新訳 茶の本』（岡倉天心 大久保喬樹訳、角川ソフィア文庫） 『茶道文化検定公式テキスト4級』（株式会社 淡交社）				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち振る舞い等の実技があるので、動きやすい服装が望ましい。ソックス（白）持参。 ・ 模擬茶会の抹茶、菓子代として1人1,000円を最初の授業で徴収する。 ・ 受講する人数によっては授業内容に若干の変更が生じる場合がある。 				

授業科目	書道を学ぶ	単位数	2	担当教員	土屋 明美
講義の内容	<p>毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。</p> <p>基本的な漢字（楷書・行書）の筆づかい・筆の運び方から作品の制作まで行います。</p>				
到達目標	<p><漢字>を中心に学び、半紙や色紙などを使用して創意工夫し、基本的な漢字（楷書・行書）の習得を到達目標とします。</p>				
授業計画	第1回	ガイダンス…授業の進め方			
	第2回	「楷書を書こう」	筆使い	①練習	
	第3回	〃		①清書	
	第4回	〃	形のまとめ方	②練習	
	第5回	〃		②清書	
	第6回	〃	文字の並べ方	③練習	
	第7回	〃		③清書	
	第8回	「行書を書こう」	筆使い	①練習	
	第9回	〃		①清書	
	第10回	〃	形のまとめ方	②練習	
	第11回	〃		②清書	
	第12回	〃	文字の並べ方	③練習	
	第13回	〃		③清書	
	第14回	「色紙に書く」（自由制作）		①練習	
	第15回	〃		②清書	
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に配布するプリントを予習しておくこと。		復習： 授業中に配布するプリントを復習しておくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（50%）、作品（25%）、授業態度（25%）</p>				
教科書	<p>『書道入門』（今井凌雪著、講談社）</p> <p>※絶版のため、随時、コピーして配布いたします。</p>				
参考文献	随時、参考文献を配布いたします。				
注意事項	<p>・「書」（漢字）に関心を持って授業に臨むことを希望します。</p> <p>・用具・用材について</p> <p>□大筆（最低一本） □硯（一面） □墨（一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい）</p> <p>□下敷（書道用フェルト） □文鎮 □水滴（スポイドも可） □雑巾（一枚） □古新聞紙（数枚） □半紙（毎回最低10枚・半紙が望ましい） など</p>				

授業科目	絵画を学ぶ	単位数	2	担当教員	染谷 哲夫
講義の内容	絵画の意義や歴史に触れながら、表現の基礎となる形のとらえ方や表現の方法・技法等について考えてみたい。後半には自分なりの表現をめざし一枚の絵を描く。				
到達目標	①西洋美術（絵画）の大きな流れをたどりながら絵画についての興味・関心を深める。 ②身近なものを見つめて描く。 ③創作活動への関心を高め、自分らしい表現で一枚の絵に取り組む。				
授業計画	第1回	はじめに 絵画の意義や歴史（古代）			
	第2回	絵画の歴史（中世から近代、現代）			
	第3回	絵画表現の基礎（形のとらえ方）①			
	第4回	絵画表現の基礎（形のとらえ方）②			
	第5回	絵画表現の基礎（クロッキー）			
	第6回	絵画表現の基礎（身近なものを描く）①			
	第7回	絵画表現の基礎（身近なものを描く）②			
	第8回	絵画鑑賞（近隣の美術館を訪ねる）			
	第9回	自由制作①			
	第10回	自由制作②			
	第11回	自由制作③			
	第12回	自由制作④			
	第13回	自由制作⑤			
	第14回	自由制作⑥			
	第15回	鑑賞とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 課題に対しての資料を集める構想を練る等の準備をする。 日頃より芸術的価値のある物に積極的に触れる。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて案内する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動が中心となる。 ・ 自らの頭と目と手を動かして描く楽しや喜びを味わう。 ・ 描画材は色鉛筆や水彩絵の具やアクリル絵具など自由（各自で用意する）。 ・ 学外学習として適当な土曜日を選び美術館に出かける予定（都内）。 				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
講義の内容	IT スキルのレベルアップをめざす受講生向けには、練習用教材と試験練習用教材を利用した演習を行います。創作活動をめざす受講生向けには、必要な素材の加工や利用方法、作品の出力方法などについての指導も行います。ゼミ員全員で参加し、作り上げていく合同企画もあわせて行います。興味や関心の違いを越えて何ができるのかを探っていきます。				
到達目標	検定グループは、各自がめざす検定試験の合格と情報収集と分析、情報の取りまとめと適切な表現方法の選択と実践などの情報活用能力の習得。 創作グループは、作品の完成・公開とそれに至るまでの PDCA サイクルの実践ができること。				
授業計画	第1回	演習の目標設定	第16回	IT スキルアップ対策講座1 / 卒業制作準備	
	第2回	文書処理・表計算演習1 / 創作演習1	第17回	IT スキルアップ対策講座2 / 卒業制作準備	
	第3回	文書処理・表計算演習2 / 創作演習2	第18回	ゼミナール合同企画の準備1	
	第4回	文書処理・表計算演習3 / 創作演習3	第19回	ゼミナール合同企画の準備2	
	第5回	学習成果の発表	第20回	IT スキルアップ対策講座3 / 卒業制作1	
	第6回	文書処理・表計算演習4 / 創作演習4	第21回	IT スキルアップ対策講座4 / 卒業制作2	
	第7回	文書処理・表計算演習5 / 創作演習5	第22回	IT スキルアップ対策講座5 / 卒業制作3	
	第8回	文書処理・表計算演習6 / 創作演習6	第23回	ゼミナール合同企画1	
	第9回	文書処理・表計算演習7 / 創作演習7	第24回	ゼミナール合同企画2	
	第10回	IT 模擬テスト1 / 創作中間発表1	第25回	IT スキルアップ対策講座6 / 卒業制作4	
	第11回	IT 模擬テスト2 / 創作中間発表2	第26回	IT スキルアップ対策講座7 / 卒業制作5	
	第12回	文書処理・表計算演習8 / 創作演習8	第27回	IT スキルアップ対策講座8 / 卒業制作6	
	第13回	文書処理・表計算演習9 / 創作演習9	第28回	ゼミナール合同企画3	
	第14回	文書処理・表計算演習10 / 創作演習10	第29回	ゼミナール合同企画4	
	第15回	学習成果の発表	第30回	卒業制作発表	
授業に対する予習・復習	予習：各自が設定したスケジュールに従って予備的な練習や構想を毎回練ること。		復習：時間内に達成できなかった目標について問題点を考え、次の準備に生かすこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない レポート（80%）、授業態度（20%）				
教科書	『MOS 攻略問題集 Word 2010』（日経 BP 社）、『MOS 攻略問題集 Excel 2010』（日経 BP 社） （以上、検定グループのみ）				
参考文献					
注意事項	IT スキルアップをめざす人は、学習成果を各種検定資格の取得として実現しましょう。 創作活動に励む人は、プレゼンということも意識しましょう。				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	及川 道之
講義の内容	日本の文学・歴史などの文化的な事柄について、自身の考えたテーマに沿って考察した内容をまとめる。基本的なことは既に1年次に伝えてあるので、論文もしくは作品の完成に向けて実際の作業を進めていくことが主体となる。				
到達目標	論文や作品を完成させる。 学んだ内容を他者が理解できるよう伝える。 学習の集大成としてまとめる。				
授業計画	第1回	授業を始めるにあたって～ゼミナールⅠを振り返る	第16回	後期の始まりにあたって～テーマの最終確認	
	第2回	上代文学から～古事記	第17回	テーマ別に個別指導①	
	第3回	上代文学から～万葉集	第18回	テーマ別に個別指導②	
	第4回	上代文学と歴史・風土	第19回	テーマ別に個別指導③	
	第5回	平安文学から～源氏物語①	第20回	テーマ別に個別指導④	
	第6回	平安文学から～源氏物語②	第21回	中間発表会①	
	第7回	平安文学から～更級日記	第22回	テーマ別に個別指導⑤	
	第8回	平安文学と歴史・風土	第23回	テーマ別に個別指導⑥	
	第9回	中世文学から～宇治拾遺物語①	第24回	テーマ別に個別指導⑦	
	第10回	中世文学から～宇治拾遺物語②	第25回	テーマ別に個別指導⑧	
	第11回	中世文学に描かれた地方	第26回	中間発表会②	
	第12回	中世文学と歴史・風土	第27回	テーマ別に個別指導⑨	
	第13回	近世文学～芭蕉・近松。川柳	第28回	テーマ別に個別指導⑩	
	第14回	明治以降の文学	第29回	テーマ別に個別指導⑪	
	第15回	前期のまとめと後期に向けて	第30回	最終発表会	
授業に対する予習・復習	予習： 必要に応じてその都度個別に指示する。		復習： 必要に応じてその都度個別に指示する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（80%）、発表（10%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献	必要に応じてその都度個別に指示する。				
注意事項	自らテーマを設定し、回答を自分で用意する作業になるので、その過程が何より貴重な体験となる。主体的に取り組むことが大切である。				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	宮木 孝子
講義の内容	<p>各人が自分の研究テーマを明確にして、研究レポートを完成します。小説・童話の創作を卒業研究にしようと考えている学生もほぼ、同じ授業計画で進めます。</p> <p>学生毎に研究分野や対象作家が違いますので、基本的には個人指導となります。作家研究・作品研究、児童文学研究・創作、小説創作、漫画研究・創作など。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を立て実行する努力を身につける。 ・自分で考え、その考えを他者に伝えることが発表、文章ともにできる方法を身につける。 ・それぞれの分野の専門知識の基礎を知る。 				
授業計画	第1回	授業の進め方 と論文の書き方	第16回	目次の見直し	
	第2回	各自の予定研究課題の発表と資料調査の方法	第17回	目次の見直し	
	第3回	研究計画作成と作品の選定 1	第18回	下書きと推敲	
	第4回	研究計画作成と作品の選定 2	第19回	下書きと推敲	
	第5回	研究計画作成と作品の選定 3	第20回	下書きと推敲	
	第6回	第1回 課題発表	第21回	下書きと推敲	
	第7回	第2回 課題発表	第22回	下書きと推敲	
	第8回	第3回 課題発表	第23回	中間発表会 1	
	第9回	研究テーマの選定と参考文献の調査 1	第24回	中間発表会 2	
	第10回	研究テーマの選定と参考文献の調査 2	第25回	中間発表会 3	
	第11回	研究テーマの選定と参考文献の調査 3	第26回	中間発表会の反省とレポート内容最終確認	
	第12回	研究レポートの具体的構成を考える 1	第27回	論文の提出準備 1 目次と後書きの確認	
	第13回	研究レポートの具体的構成を考える 2	第28回	論文の提出準備 2 参考文献の確認	
	第14回	研究レポートの具体的構成を考える 3	第29回	論文発表会と講評 1	
	第15回	目次の作成と夏期の予定提出	第30回	論文発表会と講評 2	
授業に対する予習・復習	<p>予習： 常に、自分の研究の進み具合を考え、計画目標に近づける努力をする。</p> <p>5回目以降に授業には、かならず質問をもって出席する。</p>		<p>復習： 研究のアドバイスを受けながら、常に自分の研究を見直し、先に進める努力をする。</p>		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（80%）、発表（20%）</p> <p>※授業態度は、積極的に研究した場合、加点します。</p>				
教科書	必要な事項などは、プリントを配布する。				
参考文献	各人の研究に合わせて紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと、研究計画を立てる。授業時間だけではレポートは完成しない。 ・下書きと推敲する期間をできれば、二ヶ月は予定する。 ・中間発表では、しっかりと発表を聞き、質問をする。 ・受け身の授業ではありません。積極的に研究を進める。 				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義の内容	人間が表現によって作り出した情報資源の利活用を中心的なテーマとして、新規性と有用性を意識した調査と報告・発表を行います。また、ゼミナール1で学んだ基礎的な方法論を応用して、明確な成果を得るためのプロジェクトを計画し、実行します。可能であれば共同での調査や討論、発表なども行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 適切なテーマを設定し、その解決策を考えることができる テーマに沿った調査を自らの計画に従って行える 調査結果をまとめ、発表することができる 				
授業計画	第1回	履修案内	第16回	プロジェクトのテスト1	
	第2回	プロジェクトの計画1	第17回	テーマ報告の作成1	
	第3回	プロジェクトの計画2	第18回	テーマ報告の作成2	
	第4回	個人テーマの策定1	第19回	テーマ報告の作成3	
	第5回	個人テーマの策定2	第20回	プロジェクトのテスト2	
	第6回	調査1	第21回	プレゼンテーションの作成1	
	第7回	調査2	第22回	プレゼンテーションの作成2	
	第8回	調査3	第23回	プレゼンテーションの作成3	
	第9回	プロジェクト・テーマの見直し	第24回	プレゼンテーション1	
	第10回	追加調査1	第25回	プレゼンテーション2	
	第11回	追加調査2	第26回	プロジェクトの実行1	
	第12回	プロジェクトの討論1	第27回	プロジェクトの実行2	
	第13回	プロジェクトの討論2	第28回	プロジェクトの実行3	
	第14回	個人テーマの討論1	第29回	プロジェクトの評価	
	第15回	個人テーマの討論2	第30回	プロジェクトの改善	
授業に対する予習・復習	予習： 課題進捗の確認		復習： ゼミ内での指導内容		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	履修中は報告、連絡、相談を心がけましょう。 テーマによっては学外で実施することがあります。 テーマについては可能な限り相談に応じます。基本的な対応範囲は、図書館、博物館・美術館、インターネット、アナログゲームです。				

授業科目	ゼミナールⅡ	単位数	2	担当教員	田中 千世子
講義の内容	映画を文化・芸術として受け止める力を養い、各自の興味のあるテーマで卒業論文を書くことが最終目標である。映画の文化を知るために世界の文化を知る。映画を通して世界の文化を理解すると同時に世界の文化の諸相に触れて、自分の文化を発展させることが望まれる。				
到達目標	1 西洋文化を宗教との関連で理解する。 2 東洋の文化を歴史的に理解する。 3 西洋の映画文化と東洋の映画文化の特徴をつかむ。				
授業計画	第1回	映画は文化であるという認識を持つこと	第16回	ケン・ローチの「大地と自由」について	
	第2回	西洋文化の基礎となるギリシアの古典を映画化したパゾリーニの映画「アポロンの地獄」について	第17回	社会主義時代の東欧映画について	
	第3回	パゾリーニの映画「女王メディア」について	第18回	社会主義時代のソ連（現ロシア）映画について	
	第4回	聖書を題材にした映画作品のいろいろ	第19回	卒論のテーマの中間発表（1）	
	第5回	イエス・キリストを描いたパゾリーニの「奇跡の丘」について	第20回	卒論のテーマの中間発表（2）	
	第6回	ゴダールの映画とキリスト教	第21回	韓国映画の歴史について	
	第7回	ロッセリーニの映画とキリスト教	第22回	タイ映画の歴史について	
	第8回	インド映画の特色について	第23回	アメリカのハリウッド映画について	
	第9回	中国映画の特色について	第24回	アメリカのインディペンデント映画について	
	第10回	卒論のテーマについて考える	第25回	アメリカで活躍する東洋出身の監督たちについて	
	第11回	先輩たちの卒論から優秀な論文を紹介	第26回	卒論発表と参考映像（1）	
	第12回	映画と歴史について	第27回	卒論発表と参考映像（2）	
	第13回	映画と社会について	第28回	卒論発表と参考映像（3）	
	第14回	社会派のケン・ローチとイギリス	第29回	卒論についての講評	
	第15回	ケン・ローチの「ケス」について	第30回	映画文化のの将来について	
授業に対する予習・復習	予習： いろんな映画を週に2本は見る。		復習： 見た映画についてメモをとる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（80%）、発表（10%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献					
注意事項					

授業科目	敬語とコミュニケーション	単位数	2	担当教員	柴田 かおる
講義の内容	敬語を使う理由と使わない理由を明確にする。広義では、初めに基本的な敬語のルールを学習。その上で、敬語を使う状況を具体的に色々と取り上げ、場面ごとに何が一番適切な敬語の使い方になるのか観察、分析し、正しく敬語が使えるようになるまで繰り返し、訓練する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊敬語を正しく使う ・謙譲語を正しく使う ・丁寧語を使ってもいい場合を理解する ・美化語を適切に使うことを理解する ・敬語以外の表現で敬意を表すことを覚える 				
授業計画	第1回	なぜ敬語は必要なのか—現代社会における敬語の考え方について、考察。具体的なケースを提示しながら敬語を使うことで、コミュニケーションの取り方がどう変わるか自ら判断できるようにする。			
	第2回	謙譲語の基本的な決まり事を学ぶ。謙譲語は自分の行為を表現することであることを徹底的に繰り返して練習することで、自然に使えるようにする。			
	第3回	謙譲語の表現の中でも、丁寧語に近い表現を学ぶ。具体例を示しながら第2週で学んだ謙譲語との違いを理解する。			
	第4回	謙譲語と、尊敬語を混同して使わないように、具体例を示しながら学ぶ。動詞の変化を見れば、主語が省かれていても謙譲語と尊敬語の違いが分かることを反復練習で覚える。			
	第5回	ウチとソトという人間関係の区切りを念頭に、ソトの人間に対しては自分のウチ側にいる人間の行為について謙譲語を使うことを繰り返し練習。			
	第6回	尊敬語の基本的な決まり事を学ぶ。尊敬語は自分以外の人物の行為を表すものであることを徹底的に繰り返して練習することで、自然に使えるようにする。			
	第7回	尊敬語を適切に使い、公道に張り出す告知文、公共施設での規則遵守を依頼する原稿を自ら書いてみる。状況を設定して、学生同士で尊敬語を使ってみる。			
	第8回	尊敬語の表現の中でも、人間関係を表す単語や、社会的地位を表す単語などの名詞を中心に学ぶ。更に敬意を表する宛名書きのルールも覚える。			
	第9回	丁寧語の基本的な決まり事を学ぶ。丁寧語は、主語が人間以外でも使えること、尊敬語や謙譲語ではなく、丁寧語でいい場合はどういった場合かを学ぶ。			
	第10回	「お、ご」の使い方、改まり表現を学ぶ。それぞれ、実際に学生自身が使って表現してみる。過剰に「お、ご」を使わずに話すことも訓練する。			
	第11回	クッション語をうまく使うことで、人間関係に配慮した敬語の使い方を身につける。実際に社会生活の中でクッション語が求められる状況を各自調べて、それにふさわしいクッション語を発表する。			
	第12回	所謂バイト語について解説。何故敬語の間違ひの中でも、バイト語として括られる表現が、不快感を与えるのか考察する。実際に学生たちがよく使う、間違った敬語を挙げてもらい、それについて、自ら誤りを見つけて正しい言い方を学ぶ			
	第13回	人に物を依頼する場合、要求を断る場合、引き受けることが不可能であることを伝える場合について、具体的な状況を想定して、敬語を練習する。いきなり「出ません」と言わずに、できないことを相手が心から納得する言い方でどう伝えるか学ぶ。			
	第14回	初対面の人間に対応する場合、クレームに対応する場合、自己紹介をする場合に、適切な敬語を使って表現してみる。			
	第15回	過去14回の講義の復習を行う。よく間違える場所を特に繰り返して復唱する。			
授業に対する予習・復習	予習： 機械的に敬語のルールを暗記するのではなく、自分の頭で相手との距離を測りながら話すようにして欲しい。	復習：	予習よりも復習に重点を置くこと。その日の授業で配布したテキストを必ず読み直すこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（90%）、レポート（5%）、授業態度（5%）</p> <p>筆記試験は授業で学んだテキストから特に多くの学生がよく間違える項目を重点的に問う。授業中に提出するレポートも評価の対象とする。</p>				
教科書	その都度プリント配布				
参考文献	その都度授業で提示(敬語の考え方や使い方は時代を反映して変わってきているため、最新の情報を伝えるため)				
注意事項	授業中は実際に敬語を使って話したり書いたりしてもらおう。プリントは1回しか配布しないし、学期末まで使用するの、毎回持参すること。私語厳禁。携帯電話は切ってから授業に臨むこと。				

授業科目	プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	山口博美・松尾信子	
講義の内容	アクティブラーニングの中核科目です。自ら考え、行動し、批評を受け、反省点から修正や改善方法を見つけ実践することで、自立した「一人前のひと」として成長していきます。この授業の前半では、このような行動様式 PDCA サイクルを身につけるための演習をグループ学習を通じて実践していきます。後半では、これを受け、自己表現をプレゼンテーションとしての完成度を高めながら練習していきます。					
到達目標	コミュニケーションに対する苦手意識を払しょくし、自分に自信が持てるようになること。					
授業計画	第1回	模擬企画への取り組み	必要な情報の収集を考え実践する	グループ・ディスカッション		
	第2回	模擬企画への取り組み	企画の具体化（私が考える実施案）	グループ・ディスカッション		
	第3回	模擬企画への取り組み	企画の実施（シミュレーション）	グループ・ディスカッション（評価）		
	第4回	模擬企画への取り組み	実施内容の修正	グループ・ディスカッション		
	第5回	企画とプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成①			
	第6回	企画とプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成②			
	第7回	企画とプレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作成③			
	第8回	企画とプレゼンテーション	プレゼンテーション実施			
	第9回	企画とプレゼンテーション	プレゼンテーション相互評価と各自の課題			
	第10回	自己アピールとプレゼンテーション	自分についての自己評価と他者評価			
	第11回	自己アピールとプレゼンテーション	短所を長所に読み替える			
	第12回	自己アピールとプレゼンテーション	見てもらいたい、評価してもらいたい自分像			
	第13回	履歴書で自己アピール				
	第14回	面接で自己アピール				
	第15回	自分の成長を評価する				
授業に対する予習・復習	予習：	特に必要ありませんが、社会に対する関心を意識して持ちましょう。		復習：	振り返りの記録を付けて、課題を見つけ出す。	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（10%）、課題（30%）、発表（60%）					
教科書						
参考文献						
注意事項	何かを記憶し覚えるのではなく、考え行動する学習です。					

授業科目	社会人の書写	単位数	2	担当教員	土屋 明美
講義の内容	毎時間、教科書のお手本を課題にして、練習と清書を繰り返します。 鉛筆を使用した基本的なかな文字の書き方から、筆を使用したはがきの書き方まで行います。				
到達目標	<ひらかな>を中心に基本的なかな文字を学び、それを履歴書・封書・手紙などに書けるように創意工夫し、日常生活の中に生かすことを到達目標とします。				
授業計画	第1回	ガイダンス…授業の進め方			
	第2回	「いろは歌」	①練習		
	第3回	”	②清書		
	第4回	「履歴書を書く」	①練習		
	第5回	”	②清書		
	第6回	「封書の書式」	①練習		
	第7回	”	②清書		
	第8回	「手紙によく使われることば」	①練習		
	第9回	”	②清書		
	第10回	「便箋を書く」	①練習		
	第11回	”	②清書		
	第12回	「はがきの書式」	①練習		
	第13回	”	②清書		
	第14回	「はがきを書く」(自由制作)	①練習		
	第15回	”	②清書		
授業に対する予習・復習	予習： 授業中に配布するプリントを予習しておくこと。		復習： 授業中に配布するプリントを復習しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、作品（25%）、授業態度（25%）				
教科書	随時、プリントを配布いたします。				
参考文献	随時、参考文献を紹介いたします。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「書写」（かな）に関心を持って授業に臨むことを希望します。 ・用具・用材について <ul style="list-style-type: none"> □鉛筆、小筆（最低一本） □硯（一面） □墨（一丁/墨汁はできるだけ避けたほうがよい） □下敷（書道用フェルト） □文鎮 □水滴（スポイドも可） □雑巾（一枚） □古新聞紙（数枚） □半紙（毎回最低10枚・かな用は薄い半紙またはロールが望ましい） など 				

授業科目	ボランティア活動	単位数	2	担当教員	吉井 利眞 他
講義の内容	地域社会とのつながりをボランティア活動を通して築きあげていくとともに、ボランティア活動の社会的な必要性を認識し、社会の構成員として状況に応じて果たすべき役割といったものについて実践を通して考えていきます。				
到達目標	ボランティア活動では毎回、活動日誌を作成します。これによって、日々の活動をとらえなおすことや活動に対する評価等を客観化できるようになることです。				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	計画作成			
	第3回	計画への評価			
	第4回	ボランティア活動			
	第5回	ボランティア活動			
	第6回	ボランティア活動			
	第7回	ボランティア活動			
	第8回	ボランティア活動			
	第9回	ボランティア活動			
	第10回	ボランティア活動			
	第11回	ボランティア活動			
	第12回	ボランティア活動			
	第13回	ボランティア活動			
	第14回	報告会			
	第15回	報告会の講評、活動日誌の提出			
授業に対する予習・復習	予習： 活動の具体的な内容についてあらかじめ調べておきましょう。		復習： 日誌で活動のチェックをしましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 発表（20%）、実技（80%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	自ら行動する習慣を身につけましょう。				

授業科目	女性文化論	単位数	2	担当教員	近喰 晴子
講義の内容	建学の理念を中心に女性（人間）としてのあり方について考える。 女性を取り巻く様々な文化環境や女性に関する身近な問題について学ぶ。				
到達目標	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を身に付ける。 様々な女性に関する文化にふれ、女性としての生き方を模索する。				
授業計画	第1回	「愛され信頼される女性」とは			
	第2回	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神とは			
	第3回	「女子」の概念、「女性」の概念			
	第4回	女性向けマンガに描かれる女性			
	第5回	ファッションと女性の文化			
	第6回	女性ファッション雑誌の特集と女性の文化			
	第7回	女性の社会進出とライフワーク			
	第8回	「主婦」の概念と家庭経営			
	第9回	働く女性と働き続ける選択			
	第10回	女性に関する様々な施策			
	第11回	女性の貧困を考える			
	第12回	これからの女性の生き方を考える ①			
	第13回	これからの女性の生き方を考える ②			
	第14回	男女共同参画社会の実現をめざし			
	第15回	まとめと復習			
授業に対する予習・復習	予習： 授業に必要な資料は事前に用意すること。 資料を検討しながら授業を進める。		復習： 授業では、講義や討論の他演習等も加える。体験したこと、講義メモの復習は必ず行うこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）				
教科書	使用せず				
参考文献	必要に応じて紹介する				
注意事項					

授業科目	女性文学を読む	単位数	2	担当教員	宮木 孝子
講義の内容	<p>まず、「女性文学」の名称の意味を理解し、その視点から作品を読む。そして、作品は樋口一葉と林芙美子のそれぞれ「にごりえ」・「たけくらべ」と「放浪記」を読む。</p> <p>明治期の女性を一葉がどのように描いたか。その背景にどのような問題があるのか、一葉の作家としての主張はどこにあるのか、を探る。次に昭和の女性を描いた作品を読み、同様の読みを深める。まとめとして、授業で学んだ内容をもとに、グループごと、課題を考え、その発表を行う。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり「読む」ことを身に付ける。 ・明治以来の女性問題を知る。 ・文学と社会との関係を知る。 ・自分で問題点を見つけ、解決の方法を探る。 				
授業計画	第1回	「女性文学」とは、何か。この授業の進め方。			
	第2回	なぜ、樋口一葉か？・女のご出世とは？			
	第3回	「たけくらべ」 読み①			
	第4回	「たけくらべ」 読み②			
	第5回	「たけくらべ」 読み③			
	第6回	「十三夜」 読み①			
	第7回	「十三夜」 読み②			
	第8回	「にごりえ」 読み①			
	第9回	「にごりえ」 読み②			
	第10回	「一葉日記」・森鴎外の一葉評価			
	第11回	作家 樋口一葉の女性意識と小説			
	第12回	昭和の作品 小説と映像1 DVD「放浪記」を視聴			
	第13回	昭和の作品 小説と映像2 DVD「放浪記」を視聴			
	第14回	昭和の作家 林 芙美子			
	第15回	明治・昭和・平成の女性文学（まとめ）			
授業に対する予習・復習	予習： 作品を読むこと。国語辞典・古語辞典・漢和辞典で、調べ、その上で、理解が難しい事柄や意味を質問して、しっかりした「読み」を重ねる。	復習：	毎時間の疑問やまとめを、ノートに記す。授業で、読んだ箇所をもう一度、読みなおし、内容を確認する。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）</p> <p>*発表は、グループで課題を決めて授業のまとめとして行う。</p> <p>*毎回、感想や質問を記入したものを提出、これは、授業態度に含まれる。</p>				
教科書	<p>新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』（樋口一葉、新潮社）</p> <p>河出文庫『たけくらべ 現代語訳』（樋口一葉、河出書房新社）</p>				
参考文献	ブレイブックス『樋口一葉と十三人の男たち』（木谷喜美枝監修、青春出版社）など。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、しっかり読んで来ないと、作品の筋（ストーリー）が分からなくなります。繰り返し読んで下さい。 ・私語は厳禁です。質問は私にして下さい。疑問点があれば、聞いて下さい。そこから作品理解が深まることも多くあります。 ・携帯電話はオフ。飲食は禁止です。 				

授業科目	風 土 と 文 化	単位数	2	担当教員	及川 道之
講 義 の 内 容	飛鳥の地に置かれていた時代からの都の歴史をたどる。とくに文学作品に見られる多彩な表現と合わせて奈良や京都など「古都」のもつ魅力を明らかにするとともに、都という空間が我々の感性に及ぼしている影響について考える。				
到達目標	古都の歴史的展開を理解する。 個々の都の特性を理解する。 歴史と風土に対する想像力をもつ。				
授 業 計 画	第1回	授業の始まりに当たって			
	第2回	飛鳥のみやこ			
	第3回	うたわれた飛鳥			
	第4回	近江京と藤原京			
	第5回	藤原京から平城京へ			
	第6回	平城京の実像			
	第7回	平城京と寺社			
	第8回	東大寺と正倉院			
	第9回	平城京から長岡京へ			
	第10回	怨霊と長岡・平安京			
	第11回	古都と風水			
	第12回	平安京の寺社			
	第13回	平安京の怪異スポット			
	第14回	秀吉による平安京再建			
	第15回	平泉～北の「みやこ」			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： それぞれの都の地理と大まかな歴史などを調べておく。	復習：	メモや書き込みなどは配布した資料とともに改めてノートに整理しておく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (80%)、授業態度 (20%)				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	万葉集を始めとした文学作品に加え、歴史書にも触れる機会が多いので地理を含めて多くの分野に関心を持つこと。ここで学んだ内容は2年後期の「文化を訪ねる」を受講する際に効果的である。				

授業科目	D T P オペレーション I	単位数	2	担当教員	森山 隆次
講義の内容	今日様々な職場で必要とされるクリエイティブ能力を持った人材育成を、コンピュータによるコンテンツ制作を、一般企業からデザイン・出版印刷・文書作成・管理といった専門職に通じる、DTP（デスクトップパブリッシング）を理解企画力のある人材の育成を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックアプリケーションの操作知識の取得 グラフィックデザイン知識の取得 学期中に2点課題の作成および提出 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの基礎知識）			
	第2回	コンピュータ実習1/A課題制作1			
	第3回	コンピュータ実習2/A課題制作2			
	第4回	コンピュータ実習3/A課題制作3			
	第5回	コンピュータ実習4/A課題制作4			
	第6回	コンピュータ実習5/A課題制作5			
	第7回	コンピュータ実習6/A課題制作6			
	第8回	コンピュータ実習7/A課題提出まとめ			
	第9回	コンピュータ実習8/B課題制作1			
	第10回	コンピュータ実習9/B課題制作2			
	第11回	コンピュータ実習10/B課題制作3			
	第12回	コンピュータ実習11/B課題制作4			
	第13回	コンピュータ実習12/B課題制作5			
	第14回	コンピュータ実習13/B課題制作6			
	第15回	コンピュータ実習14/B課題提出まとめ／総評			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『はじめてのInDesign CS6/CS5/CS4』（羽石 相、秀和システム）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

授業科目	D T P オペレーション II	単位数	2	担当教員	森山 隆次
講義の内容	グラフィックデザインの職場で必要とされる、アプリケーションの操作技術の向上とデザイン・出版印刷業界企業の専門職に通じる、企画力のある人材の育成を目指す。 「DTP オペレーション I」で学んだ技能の応用力を伸ばす。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックアプリケーションの操作知識の取得 グラフィックデザイン知識の取得 学期中に2点課題の作成および提出 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション／講義（DTPの最新技術と応用）			
	第2回	コンピュータ実習1 / A課題制作1			
	第3回	コンピュータ実習2 / A課題制作2			
	第4回	コンピュータ実習3 / A課題制作3			
	第5回	コンピュータ実習4 / A課題制作4			
	第6回	コンピュータ実習5 / A課題制作5			
	第7回	コンピュータ実習6 / A課題提出まとめ			
	第8回	コンピュータ実習7 / B課題制作1			
	第9回	コンピュータ実習8 / B課題制作2			
	第10回	コンピュータ実習9 / B課題制作3			
	第11回	コンピュータ実習10 / B課題制作4			
	第12回	コンピュータ実習11 / B課題制作5			
	第13回	コンピュータ実習12 / B課題提出まとめ			
	第14回	ポートフォリオ作成（課題の総まとめ）			
	第15回	講義（実社会におけるDTP技能の活用）・総評			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する / （○）しない 課題（60%）、作品（25%）、授業態度（15%）				
教科書	『はじめてのInDesign CS6/CS5/CS4』（羽石 相、秀和システム）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

授業科目	日本映画入門	単位数	2	担当教員	田中 千世子
講義の内容	風土と結びついた日本映画を鑑賞する。山や川や気候の違いから風土はそれぞれ独自の魅力を発揮する。それを映画から読み取る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 都市と山村の対比が登場人物にどのような影響を与えているかを理解する。 2 実写の風土とアニメに描かれた風土の対比。 3 海岸線、地平線、水平線の持つ意味を映像を通して考える。 				
授業計画	第1回	3本～5本の日本映画の最初のシーンを比較して、風土の特色をつかむ			
	第2回	東京の描かれ方を明治・大正・昭和・平成の映画で比較			
	第3回	昭和の映画で東京と京都の対比について考える			
	第4回	山村を舞台にした映画について			
	第5回	海辺を舞台にした映画について			
	第6回	ジブリアニメの自然描写について			
	第7回	黒澤映画と風土の関係・・・時代劇の場合			
	第8回	黒澤映画と風土の関係・・・現代劇の場合			
	第9回	山下敦弘の映画と風土・・・関西編			
	第10回	山下敦弘の映画と風土・・・関東編			
	第11回	ドキュメンタリーの捉える風土 (1)			
	第12回	ドキュメンタリーの捉える風土 (2)			
	第13回	各自が興味を持つ風土について			
	第14回	映画にとって風土とは何を意味するのか			
	第15回	人間にとって風土とはどんな意味があるのか			
授業に対する予習・復習	予習： テレビの旅番組などでさまざまな風土をできるだけ見ておく。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (70%)、レポート (20%)、授業態度 (10%)				
教科書					
参考文献					
注意事項					

授業科目	ルポルタージュ入門	単位数	2	担当教員	外山 真也
講義の内容	「ルポルタージュ」とは、調査・取材に基づくノンフィクション記事を指す。プロの記事に触れ、ルポルタージュとは何かを理解した上で、課題として2000字以上の記事を書いてもらう。その作業を通じて、自分が普段何に関心があり、どんな問題意識を持って生きているかを文章にする力やコミュニケーション能力を培ってほしい。報道記者やルポライターを目指す学生だけでなく、いかなる職業に就いても役立つはずである。				
到達目標	自分にふさわしいテーマを見つけ、調査・取材を基に文章を書く経験を通じて、他者から有意義な言葉を引き出し、それをまとめて、大勢の人に分かりやすく伝える文章力を身につける。				
授業計画	第1回	概要			
	第2回	ルポルタージュとは何か？			
	第3回	すぐれたルポルタージュに触れる（1）：映像作品の鑑賞①			
	第4回	すぐれたルポルタージュに触れる（2）：映像作品の鑑賞②			
	第5回	すぐれたルポルタージュに触れる（3）：記事を読む①			
	第6回	すぐれたルポルタージュに触れる（4）：記事を読む②			
	第7回	企画の立て方			
	第8回	取材編（1）：インタビューの練習①			
	第9回	取材編（2）：インタビューの練習②（原稿おこし）			
	第10回	取材編（3）：アポイントメントのとり方			
	第11回	企画書の作成&個別指導①			
	第12回	企画書の作成&個別指導②			
	第13回	執筆編（1）：ルポルタージュ向きの文章とは？			
	第14回	執筆編（2）：文章が見違えるコツ&課題（ルポルタージュ記事）の提出			
	第15回	課題の返却&講評			
授業に対する予習・復習	予習：宿題を課した際には、ちゃんとやってくる。普段から新聞や本を読む習慣を身につける。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（95%）、授業態度（5%）				
教科書	資料を提供する。				
参考文献					
注意事項	成績は、課題の出来で評価。最終的に2000字（以上）のルポルタージュ記事を提出しなければ、いかなる理由があろうとも単位はあげられない。出してもらわないと、評価のしようがないので。				

授業科目	デジタルビデオ編集入門	単位数	2	担当教員	高橋 一夫
講義の内容	デジタル時代、映像の社会的ニーズは今後ますます大きくなっていくだろう。動画や写真、音楽を自由にあやつる技術を身につけておけば、社会を生き抜くための強い味方になりうる。遊びながら映像表現の基本を学び作品を作る実習講座は、今後様々なステージで求められる『企画する力』と『表現するスキル』を育てる。				
到達目標	以下の基本を習得する。 1) 企画書・脚本作り 2) 撮影／カメラ、三脚操作 3) 編集／パソコン、アプリ操作				
授業計画	第1回	ビデオ作品制作の全体（企画から M.A.、公開まで）／ビデオ編集の役割			
	第2回	ビデオ制作ツールにふれる（1）デジタルビデオカメラ・撮影の基本			
	第3回	ビデオ制作ツールにふれる（2）編集アプリケーション/iMovie, Final Cut Pro			
	第4回	企画を作る（1）どんなビデオ作品を作るか？完成形をイメージする			
	第5回	企画を作る（2）企画構成案～シナリオ/脚本の書き方 わかりやすいということ			
	第6回	企画プレゼンテーション 人に伝える			
	第7回	撮影準備（撮影計画とテスト）			
	第8回	撮影→取り込み			
	第9回	編集の基本（1）操作 カット・ギャップを閉じる・エフェクトの基本			
	第10回	編集の基本（2）映像エフェクト ビデオトランジションとビデオフィルタ			
	第11回	編集の基本（3）文字と音のエフェクト ビデオジェネレータとオーディオエフェクト			
	第12回	編集作業（1）基本の復習			
	第13回	編集作業（2）テロップの長さを決める			
	第14回	編集作業（3）仕上げ・完成			
	第15回	まとめ・全体の復習			
授業に対する予習・復習	予習： 目にふれる映像や好きなコンテンツをただ眺めるのではなく、日頃から作り手の目で見ると慣をつけ、自分の作品づくりに活かす。	復習：	時間があればカメラ、パソコンに触れ、使い方を早く習得して、自分の意図通りの映像を撮影・編集できるようにする。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%）、実技（10%）、授業態度（15%）				
教科書					
参考文献	『CG&映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、 『映画の瞬き—映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）				
注意事項					

授業科目	ビ デ オ 創 作	単位数	2	担当教員	高橋 一夫
講義の内容	<p>デジタルビデオ編集Ⅰ、Ⅱ履修者を対象とする。</p> <p>本講座は映像のクリエイティビティ（創作表現）に主眼を置く。</p> <p>YouTube、ドラマ、CM…どんな映像も伝えたいメッセージがあってもはじめて様々なテクニックは生かされる。観客に何を伝えたいか？その為にはどんな映像と音が必要か？創作について考え、作品を制作する。</p>				
到達目標	<p>1) 頭の中にあるイメージを形（＝ビデオ）にする</p> <p>2) 映像をコミュニケーションツールとして使う</p> <p>3) 多様な映像テクニックを習得</p>				
授業計画	第1回	講座の目的・概要と授業計画の説明。Q&A			
	第2回	参考作品鑑賞。コンテンツの制作意図と、そのために使用されたテクニックを検証する			
	第3回	映像のテクニック 参考作品鑑賞と意見交換			
	第4回	音響のテクニック 参考作品鑑賞と意見交換			
	第5回	実習 高度な映像表現を学ぶ			
	第6回	実習 高度な音響表現を学ぶ			
	第7回	企画案・構成案・シナリオ作成1			
	第8回	企画案・構成案・シナリオ作成2			
	第9回	実習 高度な撮影技術を学ぶ			
	第10回	実習 高度な映像編集技術を学ぶ			
	第11回	実習 高度な音響編集技術を学ぶ			
	第12回	作品制作1 映像撮影			
	第13回	作品制作2 映像編集			
	第14回	作品制作3 音響編集			
	第15回	完成試写・全体復習			
授業に対する予習・復習	予習： 質問を用意する		復習： 質問への答えを自分で検証する		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（10%）、レポート（15%）、課題（15%）、作品（20%）、発表（15%）</p> <p>実技（10%）、授業態度（15%）</p>				
教科書					
参考文献	<p>『CG&映像しくみ事典』（永田豊志/CGWORLD、ワークスコーポレーション）、</p> <p>『映画の瞬き—映像編集という仕事』（ウォルター・マーチ/吉田 俊太郎、フィルムアート社）</p>				
注意事項					

授業科目	マンガ創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義の内容	物語をつくるための創作技法の理解。 実際にコマを割ってマンガ作品を創作します。 そのためのコマ割りの技術を学んでいきます。				
到達目標	マンガの描き方の流れを学び、ペンを使いコマを割って創作作品をひとつ仕上げるように目指します。もちろんマンガだけではなく、イラストもあり四コママンガの形もあります。 それらをまとめて毎年同人誌を作成しています。				
授業計画	第1回	【マンガ制作の流れ】 制作プロセスを理解します。			
	第2回	【コマ割りの理解①】 コマを割って課題とともに学びます。			
	第3回	【コマ割りの理解②】 コマに分割していく流れを学びます。			
	第4回	【コマ割りの理解③】 コマを読み進める流れを学びます。			
	第5回	【プロット作り】 オリジナルのあらすじを考えましょう。			
	第6回	【ストーリー作り①】 それを物語にしていきます。			
	第7回	【ストーリー作り②】 ネームという作業を学びます。			
	第8回	【課題を元にコマを割る】 コマを実際に割って見ます。			
	第9回	【課題を元にコマを割る】 アドバイスとともに完成させます。			
	第10回	【ペン入れ①】 ペンの基礎を学びます。			
	第11回	【ペン入れ②】 ペンのカケアミなどを学びます。			
	第12回	【ペン入れ③】 ペンの定規線を学びます。			
	第13回	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にマンガの下描きをしてみます。			
	第14回	【原稿用紙を使って描く】 実際に原稿用紙にペン入れをしてみます。			
	第15回	【作品講評】 アドバイス。			
授業に対する予習・復習	予習： 日常のなかで気になること、面白いことがあったらメモをとるようにしていきます。それが自分の作品を生み出す時に役に立ちます。	復習： 自宅で反復練習出来る課題は積極的に進めましょう。たくさん描く事でより上達していきます。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項	成績の優劣は技術力の高さではありません。 発想力、オリジナリティ、意欲的に取り組む姿勢によって作品は評価に値するものになります。 課題をこなせばよいのではなく、課題の目的を理解して自分の表現力を高めてください。				

授業科目	アニメーション創作	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
講義の内容	実際にキャラクターや背景を描いてアニメーションを創作することになりますが、その手法に関していろいろな形があることを楽しく学んで進められればと考えています。				
到達目標	みんなで協力して短編アニメーション一本を創りあげること。				
授業計画	第1回	アニメーション創作の流れ。			
	第2回	テーマを決めよう。			
	第3回	内容を決めよう。			
	第4回	キャラを設定しよう。			
	第5回	絵コンテを切ろう。			
	第6回	絵コンテを切ろう。			
	第7回	原画を描こう①。			
	第8回	原画を描こう②。			
	第9回	背景を作画しよう①。			
	第10回	背景を作画しよう②。			
	第11回	人物を描こう①。			
	第12回	人物を描こう②。			
	第13回	人物を描こう③。			
	第14回	仕上げてみよう。			
	第15回	まとめ。			
授業に対する予習・復習	予習：	アニメーション表現Ⅰ、Ⅱで習ったことを素材に置き換えて練習する。	復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項	成績の優劣は技術力の高さではありません。 発想力、オリジナリティ、意欲的に取り組む姿勢によって作品は評価に値するものになります。 課題をこなせばよいのではなく、課題の目的を理解して自分の表現力を高めてください。				

授業科目	写真撮影技術演習	単位数	2	担当教員	工藤 研一
講義の内容	<p>様々な分野において、写真(画像)は欠かせない表現方法としていたる所で使用されています。</p> <p>ここでは短期間で写真撮影に関する基礎的な知識を身に付け、初歩的な撮影方法をしっかり学び、写真で自己表現ができるように身に付けることを目指します。</p>				
到達目標	<p>1. 写真撮影に関する基礎知識とマナーの習得。</p> <p>2. 写真表現の習得。</p> <p>3. フォトアルバム制作による自己表現の習得。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション（履修者の所有しているカメラの把握および授業内容とスケジュールの説明）			
	第2回	講習1（写真の概要と撮影マナー、カメラとレンズの基礎知識）			
	第3回	実習1（カメラの使い方と身近な被写体の撮影実習）			
	第4回	実習2（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第5回	講習2（撮影実習結果と添削）			
	第6回	講習3（構図とフレーミング、感度と露出）			
	第7回	実習3（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第8回	講習4（撮影実習結果と添削）			
	第9回	実習4（課題：小物アクセサリの撮影実習）			
	第10回	実習5（課題：写真展および博物館の鑑賞）			
	第11回	実習6（課題：学外の屋外撮影実習）			
	第12回	講習5（撮影実習結果と添削）			
	第13回	実習7（課題：フォトアルバム制作）			
	第14回	実習8（課題：フォトアルバム制作）			
	第15回	講習6（実習のまとめ、フォトアルバム制作と作品発表）			
授業に対する予習・復習	予習： 撮影実習の前には、カメラの操作を確認しておくこと。	復習： 毎回実習で撮影された写真は、最終課題のフォトアルバム用に選んでおくこと。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（15%）、課題・作品（35%）、実技（15%）、授業態度（35%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>履修期間中は最後の課題のフォトアルバムの写真が足らなくなる様に普段でも撮影を心がけること。また履修者の知識レベルや撮影したい被写体、季節など考慮し、授業計画内容が一部変更になることもある。学外実習は主に時間の取れる土曜日に行く（3回前後実施予定）。実習が多いので出席率を重視する。</p>				

授業科目	表 計 算 演 習	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
講義の内容	表計算ソフトを活用できることは、ビジネスの世界では不可欠である。毎週演習問題に取り組むことで、各自が表計算ソフトの機能を知り、操作法をマスターし、将来業務の中で利活用できるようになることを目的とする。この授業では、各種検定試験にチャレンジしていけるよう、情報処理とビジネスの知識に関することも併せて学習する。積極的に取り組み、検定に合格できるよう頑張りましょう。				
到達目標	基礎クラスは操作とデータ分析の基礎部分の習得、応用クラスは検定試験合格とします。				
授業計画	第1回	セルやシートの基本操作			
	第2回	データの追加・計算			
	第3回	基本の関数・データ抽出			
	第4回	端数処理・論理関数など			
	第5回	関数利用のデータ集計			
	第6回	データの集計（グループ別集計、ピボットテーブル）			
	第7回	グラフの作成1・課題演習1			
	第8回	グラフの作成2・課題演習2			
	第9回	課題演習3			
	第10回	課題演習4			
	第11回	課題演習5			
	第12回	模擬試験1&解説			
	第13回	模擬試験2&解説			
	第14回	表計算総合練習①			
	第15回	表計算総合練習②			
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の実施内容について簡単な練習問題を解いてみましょう。	復習： 課題演習をやり直しておきましょう。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、実技（50%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	表計算は実用的なアプリケーションです。事務処理能力や情報活用力を高めることに役立ちますので、演習に積極的に取り組みましょう。				

授業科目	W e b デ ザ イ ン 演 習	単位数	2	担当教員	吉野 明美
講義の内容	<p>Web 関連科目の総括として、各自テーマを決めて、サイト制作を行います。</p> <p>ターゲット、コンセプト、目的を明確にして、自らの思い描く Web サイトを完成させます。制作の一連の流れ（企画、設計、制作、運営）を通して、表現力と技術力を高めていきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報の収集、分析を行うことができる。 ● 適切な表現で情報を発信できる。 ● 利用する人の視点からデザインを考案できる。 ● 作品を公開、運用できる。 				
授業計画	第1回	Web サイト制作とプランニング			
	第2回	企画の立案と情報収集			
	第3回	企画書の作成・ラフスケッチ			
	第4回	ラフスケッチを Photoshop で清書			
	第5回	ページデザイン修正			
	第6回	Web 用画像素材への変換			
	第7回	ディレクトリの配置			
	第8回	コーディング (HTML) トップページの内容をマークアップ			
	第9回	コーディング (CSS) トップページのレイアウトを整える			
	第10回	トップページのデザイン修正			
	第11回	コーディング (HTML) 下層ページの内容をマークアップ			
	第12回	コーディング (CSS) 下層ページのレイアウトを整える			
	第13回	リンク設定とレイアウトの見直し			
	第14回	文章の校正とデザイン修正			
	第15回	動作・表示確認			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 作品制作		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（10%）、作品（70%）、授業態度（20%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>原則として「Web デザインⅡ」または「Web サイト管理演習」の履修を終えていることが必要です。</p> <p>「ウェブデザイン実務士」を取得予定学生は、必ず履修してください。</p> <p>作品制作には、授業時間外にも積極的に取り組んでください。</p>				

授業科目	W e b サ イ ト 管 理 演 習	単位数	2	担当教員	吉野 明美
講義の内容	<p>Webサイトの管理や運営を学習します。</p> <p>Webサイトの使い勝手のよさのことをWebユーザビリティといいます。利用者(ユーザ)がどれだけ快適に操作できるかという視点に立ち、色彩の基本や見やすさといったデザイン性や操作性、セキュリティなどを捉えながら、情報発信管理の重要性を演習の中で身につけていきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● Webサイトの運営や管理の知識を身につける。 ● Webサイトの効果的デザイン・レイアウトを理解する。 ● ユーザビリティの視点から、Webサイトのデザインを提案できる。 				
授業計画	第1回	Webサイトの基礎知識			
	第2回	デザインの基礎(画像・色彩・フォント)			
	第3回	プランニング(サイト設計の方向性)			
	第4回	プランニング(サイトマップ)			
	第5回	プランニング(ナビゲーション・ページサイズ)			
	第6回	制作ツール(Dreamweaver)			
	第7回	制作ツール(Photoshop)			
	第8回	CSSでレイアウト(インラインレベルとブロックレベル)			
	第9回	CSSでレイアウト(ボックス・ボーダー・フロート)			
	第10回	CSSでレイアウト(背景画像・リンク)			
	第11回	文章デザイン			
	第12回	写真の加工			
	第13回	jQueryと動的サイト			
	第14回	SEO対策			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習:		復習: 課題の完成、作品制作		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験: 実施()する/ (○)しない</p> <p>課題(20%)、作品(60%)、授業態度(20%)</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<p>「WebデザインI」を履修済みで、HTMLを理解していることが必要です。</p> <p>演習科目であるため、出席及び課題の提出を重視します。</p>				

授業科目	W e b プ ロ グ ラ ミ ン グ	単位数	2	担当教員	中島 俊治
講義の内容	本講義では「JavaScript」を中心に Web プログラミングの基礎を学びます。JavaScript は、昨年 Web 標準となった「HTML5」の重要な技術仕様のひとつです。計算はもちろん、Web 上のコンテンツを動的に書き換えたり、Web のデザインもコントロールすることができます。それらを使って Web ページ上に「Web アプリケーション」を制作します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「JavaScript」の技術仕様の理解 ・「クリエイティブな楽しさ」の体感 ・「Web アプリケーション」を独力で製作できるスキル 				
授業計画	第1回	HTML5 を使った Web アプリケーションに触れてみよう			
	第2回	アプリケーションの製作構造の理解 (HTML5 要素)			
	第3回	アプリケーションのデザインの理解 (CSS3)			
	第4回	JavaScript に触れてみよう			
	第5回	データの出力 (DOM)、プログラムの計算			
	第6回	データの入力 (input フォーム部品)			
	第7回	時計を作ろう (Date オブジェクト)			
	第8回	計算機を作ろう (Math オブジェクト)			
	第9回	占いゲームを作ろう (if 構文、乱数)			
	第10回	じゃんけんゲームを作ろう (応用)			
	第11回	音をコントロールしよう (Audio オブジェクト)			
	第12回	映像をコントロールしよう (Video オブジェクト)			
	第13回	関連技術「jQuery」の紹介			
	第14回	関連技術「JavaScript ライブラリ」の紹介			
	第15回	Web プログラミングまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：	・事前配布テキストには必ず目を通しておい てください。 ・毎回、Dreamweaver を使用するの ので、その取扱に慣れておいて ください。	復習：	・授業の空き時間などを利用し、 作成物をもう一度自分で製作し、 授業内容の理解を深めてくだ さい。 ・不明な点、疑問な点は、Web 検索で必ず解決してください。	
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (40%)、授業態度 (60%)				
教科書					
参考文献					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・PC への英数入力に支障がないことを前提とします。(日頃、メールやブログ、SNS など でタイプ入力ができるようでしたらそれで構いません。) ・従来の HTML や CSS について、可能ならば事前に各自で触れておいてくだ さい。 ・「どのようなアプリがあったら楽しいだろう？」という思いを巡らせながら授業に望んで ください。 				

授業科目	Webアニメーション演習	単位数	2	担当教員	中島 俊治
講義の内容	<p>本講義では「HTML5」を使ったWebアニメーション演習を行います。</p> <p>昨年Web標準となったHTML5は、Webページの制作技術やプログラム計算のほか、グラフィカルな仕様が多く備わっています。その仕様の中から今回は「CSS3アニメーション」と「Canvas API」をメインに、JavaScriptでコントロールを行いながらWebアプリケーションの表現方法を学びます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「CSS3アニメーション」の技術仕様の理解 ・「Canvas API」の技術仕様の理解 ・「クリエイティブなプログラミング」スキルの取得 				
授業計画	第1回	Webアニメーションに触れてみよう			
	第2回	CSSの基礎理解（ボックスレイアウトと画像の表示、絶対位置表示）			
	第3回	CSS3の理解（画像処理ソフトを使わないリッチなデザイン）			
	第4回	CSS3の理解（トランスフォーム属性による変形）			
	第5回	CSS3アニメーションの理解			
	第6回	CSS3三次元アニメーションの理解			
	第7回	実習①（CSSアニメーションの企画）			
	第8回	実習②（CSSアニメーションの制作）			
	第9回	canvas APIの仕様理解、JavaScriptのおさらい			
	第10回	canvas APIでの描画の理解（矩形、多角形、直線）			
	第11回	canvas APIでの描画の理解（円形、グラデーション、文字）			
	第12回	canvas APIでの描画の理解（画像の表示）			
	第13回	canvas APIでのアニメーション仕様の理解			
	第14回	実習③（canvas APIの企画）			
	第15回	実習④（canvas APIを使ったアニメーションの制作）			
授業に対する予習・復習	<p>予習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前配布テキストには必ず目を通しておい てください。 ・毎回、Dreamweaverを使用するので、その取扱に慣れておい てください。 	<p>復習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の空き時間などを利用し、作成物 をもう一度自分で製作し、授業内容の理 解を深めてください。 ・不明な点、疑問な点は、Web検索で必ず 解決してください。 			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する / （ ）しない</p> <p>筆記試験（40%）、授業態度（60%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・PCへの英数入力に支障がないことを前提とします。（日頃、メールやブログ、SNSなどでタイプ入力ができるようでしたらそれで構いません。） ・HTML5やJavaScriptを理解している必要がありますので、なるべく前期「Webプログラミング」を履修しておいてください。 ・「どのようなアニメーションだと楽しいだろう？」という思いを巡らせながら授業に望んでください。 				

授業科目	商業デザイン演習	単位数	2	担当教員	森山 隆次
講義の内容	本授業ではコンピュータによる課題作成を中心に、学生各自のデザインの想像力・創作力をデータ作成という具現化実習を通じて、クリエイティブ能力を発展・向上させ、積極的な提案を求められる実社会に通用するスキルを育てることを主たる目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックアプリケーションの操作習得 ・学期中に2点課題の作成および提出 ・国際ユニバーサルデザイン協会認定「UD 検定」受験能力取得 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション、講義（デザイン史および現代デザイン概論、ユニバーサルデザイン概論）			
	第2回	コンピュータ実習1（ソフトウェアの使い方）			
	第3回	コンピュータ実習2（A課題作成）			
	第4回	コンピュータ実習3（A課題作成）			
	第5回	コンピュータ実習4（A課題作成）			
	第6回	コンピュータ実習5（A課題作成）			
	第7回	コンピュータ実習6（A課題作成）、課題の提出			
	第8回	コンピュータ実習7（B課題作成）			
	第9回	コンピュータ実習8（B課題作成）			
	第10回	コンピュータ実習9（B課題作成）			
	第11回	コンピュータ実習10（B課題作成）			
	第12回	コンピュータ実習11（B課題作成）			
	第13回	コンピュータ実習12（B課題作成）、課題提出			
	第14回	講義（デザイン概論総集）			
	第15回	総評・まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 課題作成に関する、素材・情報のまとめ		復習： アプリケーションソフトの操作確認		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（30%）、課題（60%）、授業態度（10%）				
教科書	『はじめての5分でできる Illustrator CC/CS6/CS5/CS4』（羽石 相、秀和システム）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

授業科目	C G 演習		単位数	2	担当教員	吉井 利眞
講義の内容	<p>3D・CGソフト（Shade）を利用し、3次元的な構想力と簡単な製図手法の習得をめざす。</p> <p>3次元空間をパソコンの画面上でどのように把握し、表現することができるのかという基本的な感覚の掌握を前提に、身近なもののデザインを行う。</p>					
到達目標	<p>到達目標は空間座標による立体構造の把握と表現力の習得、創造力の鍛錬、CG制作にかかわる基本ツールや表現手法の習得におきます。これらは課題への取り組みによって達成度が評価されます。</p>					
授業計画	第1回	3次元空間の理解と表現				
	第2回	製図の基本 作業用座標平面と見取り図				
	第3回	基本製図作業（1）各種ツールの理解				
	第4回	基本製図作業（2）各種形状の作成と編集				
	第5回	基本製図作業（3）掃引体と回転体				
	第6回	課題への取り組み（1）テーブルと椅子の制作				
	第7回	課題への取り組み（2）ガラスと液体の製作				
	第8回	課題への取り組み（3）材質の決定・プーリアンレンダリング練習				
	第9回	プレゼンテーションと相互評価				
	第10回	課題への取り組み（1）製品のデザイン				
	第11回	課題への取り組み（2）図面への描きだし①丸めと回転				
	第12回	課題への取り組み（3）図面への描きだし②プーリアン				
	第13回	課題への取り組み（4）細部の完成指導①テクスチャーの貼り付け				
	第14回	課題への取り組み（5）細部の完成指導②				
	第15回	プレゼンテーションと相互評価				
授業に対する予習・復習	予習： アプリケーションのツールについて事前に触れて慣れておきましょう。		復習： 空間把握は難しいところもあります。もう一度課題をやり直してみましょう。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（50%）、作品（50%）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	<p>デザインの委託もあります。成果がおおやけになることを励みに頑張りましょう。</p>					

授業科目	C G 創 作	単位数	2	担当教員	吉井 利眞
講義の内容	CG 演習で習得した3DCG ソフトの基本操作を前提に、多様な形状をもつ複雑な立体像の制作に取り組みます。各自がテーマを決め、作品を作り上げていきます。 最初にサンプルを全員で作成し、要領を覚えた段階で作品の制作に入っていきます。				
到達目標	到達目標は多様な3DCG 表現力の習得と実践とします。これらは作成課題の完成度によって達成度が確認できます。				
授業計画	第1回	サンプル作製①			
	第2回	サンプル作製②			
	第3回	テーマについて企画、プレゼンテーション。			
	第4回	作品作り			
	第5回	作品作り			
	第6回	作品作り			
	第7回	作品作り			
	第8回	中間発表			
	第9回	作品作り			
	第10回	作品作り			
	第11回	作品作り			
	第12回	作品作り			
	第13回	アニメーションやムービーへの描きだし①			
	第14回	アニメーションやムービーへの描きだし②			
	第15回	プレゼンテーション、相互評価			
授業に対する予習・復習	予習： 特に必要ありません。		復習： 授業時間内でうまくいかなかった点をやり直しておきましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（20%）、作品（80%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	作品の完成度を高めることにも注力しましょう。				

授業科目	ト ラ ベ ル 実 務	単位数	2	担当教員	小澤 俊雄
講義の内容	旅行に関する法令や国内・海外旅行の手配をする際に必要な実務知識全般を習得します。特に時刻表や運賃・料金規則等旅行実務に関する知識を学習致します。更に海外旅行に不可欠な出入国法令及び手続きに関する知識も学習致します。				
到達目標	① JR時刻表を使用して日程作成や運賃・料金の計算が可能と成る事 ② 旅行業者が企画する募集型企画旅（海外・国内ツアー）のツアーパンフレットから旅行条件や旅行契約内容を具体的に把握する事。 ③ 出入国手続き関係書類作成が可能と成る事。				
授業計画	第1回	観光業界&関連業界の歴史及び関連法規（旅行業法令・標準旅行業約款）の概要			
	第2回	JR営業規則の概要及びJR時刻表の読み取り演習			
	第3回	JR運賃規則（普通運賃・往復&学生割引運賃・団体割引等）の要点			
	第4回	JR料金規則（特別急行料金・グリーン料金・寝台料金・乗継割引等）の要点			
	第5回	JR運賃・料金券の変更・払戻・紛失の要点			
	第6回	JR運賃・料金の計算演習			
	第7回	国内航空運送約款&運賃・料金規則の要点			
	第8回	各種運賃・料金（宿泊料金・貸切バス・フェリー）規則の要点			
	第9回	国際航空運送約款及び運賃・料金規則の要点			
	第10回	国際航空時刻表の読み取り演習&時差演習			
	第11回	欧州列車時刻表の読み取り演習			
	第12回	出入国手続き（旅券の申請及び受領・失効・増補・紛失・等）の要点			
	第13回	主要国の出入国手続き（日本出国→外国入国・出→日本帰国時の入国・検疫・税関手続き等）			
	第14回	出入国手続き関係書類の作成演習（旅券申請書・査証申請書・出入国記録書・税関申告書等）			
	第15回	国内・国際運送機関の概要及びまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： ツアーパンフレット等を収集し内容を確認		復習： 配布済演習問題等の反復練習		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）授業態度（50%）				
教科書	『旅行業務入門』（株JTB総合研究所）				
参考文献	『数字で見る観光』（社団法人・日本観光振興協会） 『数字が語る旅行業』（一般社団法人・日本旅行業協会）				
注意事項	日頃より新聞等の観光関連記事に目を通す事を心掛けて下さい。更にTV等の「旅番組」を視聴し観光に興味を持って下さい。大いに質問し講義内容に関心を持って受講願います。演習問題への取り組み等も成績評価の際に加味します。				

授業科目	文化を訪ねる	単位数	2	担当教員	及川 道之
講義の内容	学内での4回の授業後、12月上旬に2泊3日で京都を訪れる。				
到達目標	オリジナルの旅程を作成する。 京都市内を滞りなく移動して歴史文化を実感する。 オリジナルの旅行記を作成する。				
授業計画	第1回	授業の開始にあたって			
	第2回	行動計画をたてるために			
	第3回	実際に行動計画をたてる			
	第4回	旅行前の最終確認と諸注意			
	第5回				
	第6回				
	第7回				
	第8回				
	第9回				
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 特に必要としないが、「風土と文化」の資料やノートを持参することが望ましい。	復習： 特に必要としない。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（50%）、授業態度（50%）				
教科書					
参考文献	必要に応じて指示する。				
注意事項	掛け替えのない充実した時間を過ごせるよう、魅力的なプランの作成に努力すること。外部の様々な場所に足を運ぶことになるので、日頃からの受講態度によっては授業の登録を許可しない場合もある。				

授業科目	伝統工芸を訪ねる	単位数	2	担当教員	吉井 利眞																														
講義の内容	<p>この授業では、脈々と受け継がれてきている日本各地の伝統工芸を対象に、手工労働にみられる非常に高度なスキルとその継承そして振興策の実情等に直接触れることで、「ひと」の持つ能力の大きな可能性と、その鍛錬に費やされる並々ではない努力、そしてこれを継承するための「ちえ」や協力（人のつながり）について学びます。前期または後期を選んで受講してください。</p> <p>夏季は8月上旬に鎌倉・箱根、冬季は2月中旬に金沢で実習を予定しています。</p>																																		
到達目標	<p>到達目標は伝統工芸の体験実習を通して、手工の奥行きを深さを実感し、これをレポートとして取りまとめることとします。達成度はレポートの内容、完成度によって評価されます。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>伝統工芸入門</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>各地の伝統工芸に関する情報の収集（1）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>各地の伝統工芸に関する情報の収集（2）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>各地の伝統工芸に関する情報の収集（3）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成 準備</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>実習 訪問調査（1）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>実習 訪問調査（2）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>実習 訪問調査（3）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>実習 訪問調査（4）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>実習 訪問調査（5）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>実習 訪問調査（6）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>実習 訪問調査（7）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>報告書の作成指導</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>プレゼンテーション わたしの見た伝統工芸</td> </tr> </table>					第1回	伝統工芸入門	第2回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（1）	第3回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（2）	第4回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（3）	第5回	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成 準備	第6回	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成	第7回	実習 訪問調査（1）	第8回	実習 訪問調査（2）	第9回	実習 訪問調査（3）	第10回	実習 訪問調査（4）	第11回	実習 訪問調査（5）	第12回	実習 訪問調査（6）	第13回	実習 訪問調査（7）	第14回	報告書の作成指導	第15回	プレゼンテーション わたしの見た伝統工芸
第1回	伝統工芸入門																																		
第2回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（1）																																		
第3回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（2）																																		
第4回	各地の伝統工芸に関する情報の収集（3）																																		
第5回	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成 準備																																		
第6回	訪問先の決定と現地調査用ワークシートの作成																																		
第7回	実習 訪問調査（1）																																		
第8回	実習 訪問調査（2）																																		
第9回	実習 訪問調査（3）																																		
第10回	実習 訪問調査（4）																																		
第11回	実習 訪問調査（5）																																		
第12回	実習 訪問調査（6）																																		
第13回	実習 訪問調査（7）																																		
第14回	報告書の作成指導																																		
第15回	プレゼンテーション わたしの見た伝統工芸																																		
授業に対する予習・復習	予習： Web 等で訪問地の歴史などを調べる。		復習： 課題をまとめる。																																
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（50%）、発表（50%）</p>																																		
教科書																																			
参考文献																																			
注意事項	費用は自己負担となります。計画的に準備していきましょう。																																		

授業科目	イベント・プランニング	単位数	2	担当教員	宮本 ゆかり
講義の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントとは何か？を知る ・イベント開催に必要な概要を掴む ・自ら立案し、想定する力をつける 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らのアイデアを、他者に明確に伝える力が身についている ・イベントの企画書を、基本フォームに則って自ら作成・完成できる 				
授業計画	第1回	I-1 イベントとは？ イベントとは何か？イベントの意義と価値。お客が集まる動機をつくる			
	第2回	II-1 見込み客を参加に導くプロセスを作る 人の心理とは？人がイベントに参加する動機を、理性と感情面から探る			
	第3回	II-2 見込み客を参加に導くプロセスを作る イベント情報の発信方法、アナログ手段・デジタル手段			
	第4回	II-3 見込み客を参加に導くプロセスを作る イベント成功までのロードマップについて概要を掴む			
	第5回	III-1 人を巻き込む組織の作り方 イベントの主催者は誰か？ターゲットは誰か？			
	第6回	III-2 人を巻き込む組織の作り方 イベントの「テーマ・目的・目標・対象者」について、主催者側と参加者側に分けて考える			
	第7回	IV-1 イベントを主催する イベント主催者と参加者のメリットを明確にする			
	第8回	IV-2 イベントを主催する 企画からイベント当日までのロードマップとプランニングシートの全体像を把握する			
	第9回	IV-3 イベントを主催する 自分の企画したオリジナルイベントをプレゼンテーションする			
	第10回	IV-4 イベントを主催する プランニングシートの素案に、スタッフからのフィードバックを加える			
	第11回	IV-5 イベントを主催する イベントの収支計画を立てる			
	第12回	V-1 イベント全体の考察 イベントを構成する役割分担について（事前・当日・事後）			
	第13回	V-2 イベント全体の考察 イベント当日の役割分担とスタッフの配置			
	第14回	V-3 イベント全体の考察 イベントの規模と適切なスタッフの配置から収支計画見直し。全体の企画書を完成させる			
	第15回	振り返りとまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業冒頭の3分間プレゼンの準備をする。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30%）、発表（30%）、授業態度（40%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの概要を座学で知識として得た後、学びを授業内でアウトプットする形式をとる ・社会に出てからの実践的な力を身につけることに重きを置く ・リアルな実感を伴う学習となるよう、校外体験・見学も推奨する ・受け身な姿勢ではなく、アウトプットを重視する ・学生の主体性・自主性を尊重し、必要に応じてサポートする 				

授業科目	イベント・マネジメント	単位数	2	担当教員	宮本 ゆかり
講義の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント全体の運営、スタッフをマネジメントするための手法を身につける ・人のモチベーションについて理解する ・マネジメントの実際（時間管理・目標管理）の概要を理解する ・マーケティングの基礎知識を理解する 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら立案したオリジナルのイベントの企画書を作成・完成できる ・イベントの告知チラシを作成できる 				
授業計画	第1回	I-1 マネジメントとは？ セルフカウンセリング、達成のステップ、人間の5つの基本的欲求			
	第2回	II-1 人間関係構築の原則 選択理論心理学、内的コントロール・外的コントロール理論			
	第3回	II-2 人間関係構築の原則 自分の目的・ビジョン・目標から、やりたいイベントを考え共感を得る			
	第4回	II-3 人間関係構築の原則 良い目標の8つの条件			
	第5回	III-1 タイムマネジメント パレートの80対20の法則、プライオリティマネジメント（重要度と緊急度のマトリックス）			
	第6回	IV-1 人を巻き込む伝え方 本質を見抜く力、論理的思考法			
	第7回	IV-2 人を巻き込む伝え方 伝えたいテーマに沿った企画のプレゼンテーション			
	第8回	IV-3 人を巻き込む伝え方 伝えたいことの数値化・キーワード化・ポイント3点主義のプレゼンテーション			
	第9回	V-1 イベントを成功させるマーケティング USP（ユニークセールスプロポジション）とは何か？自分とイベントのUSPを明確にする			
	第10回	V-2 イベントを成功させるマーケティング ダイレクトマーケティングの基本とイベントへの応用			
	第11回	V-3 イベントを成功させるマーケティング パブリシティ戦略（PR）の基本とタイミング			
	第12回	VI-1 コピーライティング コピーライティングの基本			
	第13回	VI-2 コピーライティング 実践的なコピーを書く文章術			
	第14回	VII イベント告知のチラシ作成 人の心理とマーケットを考慮したイベントチラシの作成			
	第15回	振り返りとまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 学びのポイントを振り返りシートに記入してレポートにまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30%）、発表（30%）、授業態度（40%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業までに課題が与えられた場合は必ず行うこと。 ・授業の最後に「振り返りの記録シート」を必ず記入して提出すること。 				

授業科目	ファッションコーディネート	単位数	2	担当教員	中西 希和
講義の内容	この授業では、ファッションコーディネートの基本的な知識や技術を身につけ、2種類以上のアパレル商品を組み合わせることによってトータルに美しく着こなす方法、また自分らしさを表現する方法を考えていきます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションコーディネートに関する基本的な知識や技術を身につける。 ・目的やイメージに合ったコーディネートをトータルで表現する力を養う。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション、ファッションコーディネートの重要性			
	第2回	20世紀のファッション史			
	第3回	ファッション情報について			
	第4回	ファッション商品の基礎知識			
	第5回	色によるコーディネート(1)			
	第6回	色によるコーディネート(2)			
	第7回	素材・イメージによるコーディネート(1)			
	第8回	素材・イメージによるコーディネート(2)			
	第9回	体型に合わせたコーディネート			
	第10回	ヘア&メイクの基礎知識			
	第11回	ネイルの基礎知識			
	第12回	フォーマルウェアの知識(昼、夜、ウェディング、ブラックのフォーマル)			
	第13回	T.P.Oに合わせたコーディネート①(個別コーディネート作成方法)			
	第14回	T.P.Oに合わせたコーディネート②(個別コーディネート作成)			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(30%)、作品(40%)、授業態度(30%)				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・図像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。 ・配布資料が多いので、失くさないように整理して保管してください。 				

授業科目	カラーコーディネーター	単位数	2	担当教員	森山 隆次
講義の内容	実社会における様々な分野で注目されている「カラーコーディネーター」について、その基礎を身に付け、クリエイティブな仕事に対応できる能力を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省認定の色彩検定3級の資格取得 ・文部科学省認定の色彩検定2級の知識の習得 ・実習課題の制作提出 ・筆記試験成績の向上 				
授業計画	第1回	講習内容のオリエンテーション（授業内容とスケジュールの説明）			
	第2回	基本講習1（色のはたらき）			
	第3回	基本講習2（光と色）			
	第4回	基本講習3（色の表示Ⅰ）			
	第5回	基本講習4（色彩心理）			
	第6回	基本講習5（配色調和）			
	第7回	基本講習6（色彩効果）			
	第8回	基本講習7（色彩と生活）			
	第9回	基本講習8（ファッション）			
	第10回	基本講習9（インテリア）			
	第11回	基本講習10（色名）			
	第12回	基本講習11（色の表示Ⅱ）			
	第13回	色彩検定対策講習Ⅰ			
	第14回	色彩検定対策講習Ⅱ			
	第15回	総評・まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書を前もって読んでおくこと		復習： 出された課題を仕上げてくること		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、課題（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『色彩検定公式テキスト3級編』（AFT 企画） 『新配色カード199a』（日本色研事業株式会社）				
参考文献	インターネットにより参考資料各種				
注意事項					

授業科目	ショップ・プレゼンテーション	単位数	2	担当教員	中西 希和
講義の内容	<p>ショップでは、ただ商品を並べるだけでなく、商品やショップのコンセプトをアピールしてお客様をひきつけ、買い物をするためにわかりやすく快適な環境を作る必要があります。</p> <p>この授業では、お客様にとって快適なショップとは何かを考え、基礎的な陳列や展示方法、POP、ラッピングの技術を習得することを目指します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・快適で魅力的なショップとは何かを理解する。 ・ショップ演出の基礎的な知識、技術を身につける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション：ショップ演出の重要性、購買心理			
	第2回	快適なショップ（売り場）作り、ディスプレイの役割と効果、照明・色彩			
	第3回	陳列の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第4回	展示の基本とさまざまな方法について、ショップの事例紹介、実習			
	第5回	ラッピング（斜め包み、合わせ包み、リボンの結び方）			
	第6回	ラッピング（ふろしき包み、ラッピングの応用）			
	第7回	POPの役割、POP文字の書き方、基本的なレイアウトパターン			
	第8回	POP制作			
	第9回	アパレル商品の陳列・展示方法1（フォーミング、フォールデッド）			
	第10回	アパレル商品の陳列・展示方法2（レイダウン）			
	第11回	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）			
	第12回	学外見学（百貨店等のディスプレイ見学）、学外見学まとめ（レポート提出）			
	第13回	ディスプレイ実習(1)（ディスプレイ計画、グループ決定）			
	第14回	ディスプレイ実習(2)（グループごとにディスプレイ発表）			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で配布する資料をよく読み、復習するようにしてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（30%）、レポート（15%）、課題（15%）、発表（10%）、授業態度（30%）</p>				
教科書	必要に応じ、プリントを配布します。				
参考文献	授業の中で随時、紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・画像資料を紹介しながら授業を行うため、パワーポイント、DVDを使用します。 ・配布資料が多いので、失くさないように整理して保管してください。 				

授業科目	流通デザイン	単位数	2	担当教員	清水 敏行
講義の内容	本講座は、私たちの日常生活の幅広い分野で関わりのあるマーケティング活動を基礎から体系的に理解することを目的とします。市場における流通活動を中心としたマーケティングの基本知識と、時事・実務ケースなどの事例を合わせて学習していきます。				
到達目標	到達目標は、①マーケティングの基本的な考え方を習得する、②実際の仕事の場面でどのように活用するのか具体的な方法を理解する、③今日的な問題に対してどのように対応するのかを習得する、④最終的には、マーケティング的な視点からものごとを見る姿勢や能力を養成することを目指します。				
授業計画	第1回	マーケティングの概要（定義と役割）/具体的な企業や商品の事例研究① ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第2回	マーケティング・コンセプト（考え方と発展過程）/具体的な企業や商品の事例研究② ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第3回	マーケティング・マネジメント（環境と管理）/具体的な企業や商品の事例研究③ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第4回	市場細分化（基準と条件）/具体的な企業や商品の事例研究④ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第5回	標的市場の設定（設定の各方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑤ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第6回	マーケティング・リサーチ（市場調査のプロセスと方法）/具体的な企業や商品の事例研究⑥ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第7回	消費者行動（購買意思決定のプロセスと要因）/具体的な企業や商品の事例研究⑦ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第8回	製品戦略1（製品分類、ライフサイクル）/具体的な企業や商品の事例研究⑧ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第9回	製品戦略2（ブランド、新製品開発）/具体的な企業や商品の事例研究⑨ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第10回	価格戦略（価格設定方法、価格政策）/具体的な企業や商品の事例研究⑩ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第11回	流通チャネル戦略1（物流、新しい流通）/具体的な企業や商品の事例研究⑪ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第12回	流通チャネル戦略2（物流、新しい流通）/具体的な企業や商品の事例研究⑫ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第13回	プロモーション戦略1（広告、パブリシティ）/具体的な企業や商品の事例研究⑬ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第14回	プロモーション戦略2（人的販売、販売促進）/具体的な企業や商品の事例研究⑭ ～前半は基本講義、後半は事例資料をもとに個人研究、レポートをまとめ、発表と意見交換、レポート提出。			
	第15回	これまでの総まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 日頃から、さまざまな業界や企業の具体的なマーケティング活動に関心を持ち、商品やブランド、広告や販売促進活動などに興味を持って情報収集してください。	復習：	授業で学習した店舗や商品などは、実際に訪問し観察をしたり、商品を使用したりして研究をしてください。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『マーケティング・ビジネス実務検定＜ベーシック版テキスト＞』 （国際実務マーケティング協会編、税務経理協会）				
参考文献	『流通経済の手引き』（日本経済新聞社）、『日経トレンドィ』（日経ホーム出版社）				
注意事項	レポートは、毎回の授業時に作成し提出します。 他の学生の勉学を妨げる行為は禁止（私語、携帯電話など）。				